

特別
6622



素石川村

大藏用



抄もく角紙乃濫錫二日奉記示
 幸仁天皇七年當蘇の彌連とて
 擊申申鈎の力者ありとて一と下り
 豈承力に比るれしのおんこらふ
 天皇の神をまことありしをその國也
 寤福と令換力亦 所委て皇波

◎紫雲

仇 禱 角 力 哉

催 さん 堂 衆 起

東 一 勝 負

東西乃乃武士能も奇法あり

而判者の乞多新事あり

いゝいゝ序 踏 手

孔 じゝゝ 如く 持 示 行 人 也

村 道 乃 示 一 驚 人 也



軍配紙より

安らぎ

至千鳥

桂下館

沾嶺



紳士月報には能くいふ所を金と云ふは
そまひしり先し何れをせしむるに思
事ししり先し何れをせしむるに思
ふ事ししり先し何れをせしむるに思
しり先し何れをせしむるに思
左右よりけり高根の雲旭はきり
嶺の也夕紫より紫とぬりぬり
崎しり先し何れをせしむるに思
後愚計はきり先し何れをせしむるに思
只東西よりけり先し何れをせしむるに思



以闡分東西
白水
依甲乙定關

富士筑波初筵

十月朔日

判者 珠來 秀國 可因 紫鳳 冬英

富士はくもいほゆと先共し川ゆゆ
 めども兼一高樓乃 向
 櫛よ人呼よ櫂と釣る玉きき
 程魚くらんく只おりく
 定くなく定る一棹道の道
 浮うたまはまん石乃壽
 月の夜ふは客をよりおせくも
 雁もあまきま秋の縁ひ
 御遷宮二見の住連も今年藁
 江戸衆く又く二人寮内子
 肺くや幸徳實踏一足乃裏

麁秋 逸已 雲奴 紀迪 來父 府月 執筆 雲奴 徒琉 府月

藍考。瓶。若。徳。埋。火
よ。以。娘。乃。堤。あ。り。く。奈。志。川。
祈。も。今。下。の。和。能。の。摩。簡
身。柱。く。焔。と。さ。申。き。り。く。り
待。不。并。ぬ。月。乃。物。干
星。の。敷。置。伎。懼。乃。水。澄。子
朝。風。の。係。千。鞠。乃。起。別。純
夜。中。う。ん。と。ピン。と。掃。出。火
華。伊。ひ。馬。一。障。子。張。の。申。る
一。足。く。あ。あ。き。岨。乃。お。て。る。居。る
極。く。お。び。く。小。玉。の。馬

恭郷 來父 柳々 午月 執筆 未白 逸已 紀迪 麿秋 執筆 全 龜岱 逸已

廊。く。か。り。ま。く。校。第
何。代。お。る。御。師。の。肩。衣
二。三。日。笑。の。残。る。や。一。つ。多。分
お。多。く。睡。い。盆。乃。さ。り。き
昔。文。乃。も。月。と。他。乃。孫。の。有
早。魃。の。山。と。霧。を。四。子。此。の。装。々
湯。の。の。厨。乃。今。下。日。本。地。挽
十。月。小。娘。と。え。申。廿。房。こ
お。上。日。と。知。り。に。障。落。る。り
ま。く。残。る。月。乃。暑。さ。よ。竹。坂
お。と。持。一。の。多。く。空
二。ウ
公。川。乃。舞。乃。く。く。ハ。稻。の。波

未白 紀迪 柳々 恭郷 逸已 徒琉 麿秋 午月 府月 龜岱 執筆 全 恭郷

羽のまをと追跡く
 掌小き申るるり此奇應丸
 おぐーの氣程乃縁五
 都より根引の沙汰もるり
 飯々牡丹子廿日匡留
 暮戀一菓子より月を蟻の道
 誰々もばはん會下の別刀
 庭戸系所送るる乃
 花遅るるる乃
 夢傳子切篋又々伊勢の春
 狂女おるるもおと合と侍
 紀念々々月出々々此扇
 尾花の中子縁縁の神

雲奴 來久 府月 柳々 紀迪 麿秋 雲奴 逸已 執筆 來久 徒琉 執筆 全

追神も equal 寺の呼吸能なる
 跡々々々 敵間 遠々
 縁割々々立よらるる界も形
 多々々々々々々々々々々々
 妻々一様々々々々々々々々
 病々々々々々々々々々々々
 一度も鋸見々々々々々々
 お更々々々々々々々々々々
 徳々々々々々々々々々々々
 幸々々々々々々々々々々々
 酒の痛く甚ふき々々々々
 舞々々々々々々々々々々々
 袖慶々々々々々々々々々々

來久 龜岱 麿秋 雲奴 逸已 府月 未白 午月 紀迪 龜岱 執筆 雲奴 柳々

任君とくく又申。まき部
 乗巻さうり雪の中をぬれハ雪の色
 廻り仕舞ふく茶海も行年
 上下の襟巻をまきく老
 今日ハ朝々後をゆる公事
 豊さう4愚くとん申。まき部の京
 夢れ申うら道をかぬ
 昼顔のわくくて雪は古靴
 乞食さうもまきのうぬ 天
 斬髪中まきかやうは獲民書札
 汲みぬくく義照 猿
 夢れさう亦さうくく 玉 椿
 石切音とん花乃まきく 茨

執筆 養郷 紀迪 午月 未白 柳々 府月 逸巳 徒琉 龜岱 麁秋 養郷 執筆

種月さう似てぬか 人くく 季
 あまの草まきま 奥住まぬ潔布
 腕巻乃満まきぬ方 歯くぬけさう
 一團の種ハまきいし 筆
 名城乃瑾まきあまの城のまき
 啾くぬ振りくくまき 来
 雨止んく耳はけぬく 糸 車
 ビヤク一日木曾乃逗留
 干魚さうくく送るく 母れもく
 ちあわせさう 鹿乃 卯 陈
 轡と塔まきはく 赤 地 ぎ
 見さうくち雪が筆つくく日枝
 おの雪さうまハまき種く 詩のまき

執筆 全 来父 未白 紀迪 府月 午月 徒琉 柳々 龜岱 麁秋 徒琉 未白

示の音志川心後の釋奠
 石段と足来かくも新女月
 新女乃碎女今よ不きく
 鮮桂小片為片くく御榮花
 女よ子理ハかくく利く釘
 みく新髪公長吹きる月のさほ
 ソ川よさのを古塚のあ
 足洗ふくち捨析子飲く付亭
 きのあよりあ乃昔む若芝
 枝くくくくめは花のうくお神や
 交くく百千くくくの奉
 同 二庭 霜月廿者四日
 判者 存義 買明 雞口 温克 小知

午月 執筆
 全 全 全 全 全
 執筆 雲奴 來父 恭郷 全

花鳥如移を袋 子みおも季
 春と隣まのまき 友
 飛く越え川よ小船を造り果亭
 鳥あやう子魚 躍るなり
 野まきき 履乃靴と子志の
 袂の中よ菓子おき 音
 ここの月 磨くめくも純うく子
 尾よふき露乃其洞 何と
 秋分と他阿乃近ひのせうくく
 櫛乃木の間に子玉性の墓
 入妙明の旭ハ何もきく物 衣
 母の氣よ入る 智れ病身
 憂時此一物死一 寫一物

逸已 紀迪 龜岱 來父 午月 恭郷 柳々 執筆 龜岱 來父 恭郷 雲奴 未白

立寄迫乃京千右造之
 亦今宵遠き踊千右を神言
 山に掛りし才傑乃
 瘦城の色と雲集し稲の出来
 天井持ふ寄信僧如駕
 吹り流やうやと左乃所とち
 極造しき常若乃庵
 鳥打千右上外宮内
 簀利しき出さ雉子山鳥
 かきく寂しく控く音
 更る小我や小火のいつかき
 氷我々歳終るくくく
 也茶も子乃殊更も

府月
 午月
 執筆
 柳々
 徒琉
 逸巳
 紀迪
 麿秋
 執筆
 府月
 魚山
 柳々
 來久

河骨へし河に渡り蓮の心
 昼も好造乃煙る物よ
 折も不と折るくちのき夜の雪
 臣煙酒の考る妹うり
 あいさすを配り乃
 日課乃歌と二日急侍
 かいさす守もくく月く
 扇子遣ひもまこやま如秋
 はく入る膽の透れさ白く見さす
 よいさ尾やうく脊中く
 可考し岡と取得も賜へし持たる

恭郷
 雲奴
 徒琉
 逸巳
 午月
 麿秋
 紀迪
 未白
 執筆
 全
 恭郷
 午月
 紀迪

鉄床乃音と便4里へ出天
 今日を~~~~立一臨月
 豫種も亦も蛇乃姑々も
 飛布の獲よ~~~~手法の方
 色味の軍新小眼の貴々
 師、孰ある醫者乃惣契
 戸の外4身と信と~~~~早 静
 云々の環々4花と以せ
 雲よ入身ハ許さく 月心々川
 火鐘の上よ~~~~あ苔の香
 寺~~~~静を能々踏あ~~~~
 是を~~~~種乃君々々と引

柳々 未白 龜岱 逸巳 來久 徒琉 雲奴 恭郷 執筆 全 全 徒琉

夏川於床儿も獲を寄と次き
 飛出~~~~も膏藥~~~~ 櫻
 今ハ世々捨種一乃乃阿字と友
 珠數屋 摺 糸の合々爺
 等も妹も海走と 歎々仲々
 蟻の這々のも又~~~~寒月
 病人よ望も~~~~言
 心い採じ~~~~兄 方の存
 あ~~~~今日ハ高坐する迄
 訓一立身 支離まき~~~~
 目障の中へ敵り 壇 俵
 自もは~~~~干ス
 送~~~~悟り~~~~なり

麩杖 府月 逸巳 午月 恭郷 執筆 來久 徒琉 未白 府月 午月 執筆 柳々

記念の衣々加多海を中住立る
 かまかふ子残し荷のこま
 夕日てしつゝ多羽乃城下
 鼻秋もるゝ如魚油といふ
 罪亡しゝゝ陶子
 夜寒く行拂頭巾施し
 小月船をくはるる船の船
 ちちてハ星のほろ月空
 辞世ハある古本山と踏
 多父も院の仰味方仕者
 獲乃多と餅の上
 他々く日新聲を華の春
 坂と踏しゝ柳たつ侍

紀迪 龜岱 徒琉 午月 麿秋 雲奴 柳々 執筆 來父 紀迪 逸巳 執筆 全

洞川ま原もあし 后 領
 嫁と彩あハ申き出る 牛
 大徳の物秋よ去り 生 灵
 明しと見しハ窓の公雪
 壱語のまゝのまゝ勢咳 拂
 あり子ふりも一国の主
 若菜よらるゝ十布乃夕納涼
 情交のうゝ中を互恋
 音しゝあしとア屋乃を西あふ
 岩踏るゝ月夜岩角
 的むも都見さす女新より
 昔乃通了淋し大伴繪
 袴の子乃唾もあしにさ垂し

龜岱 來父 麿秋 未白 府月 雲奴 紀迪 逸巳 龜岱 執筆 柳々 恭郷 未白

譲りと受し一花乃庵号
 夜さききくまき猫の鈴の音
 お嚏〜〜名を又りす
 苺子の色は袖ふくももいひ
 涼ふう〜月の内立
 替女の髪油〜〜業
 手〜〜朱の玉籠
 採溜〜玉度の繕よを思〜
 一村 歎とあ〜夜瘡
 親牛乃庚神ハあ〜ぞろ〜
 人の足勢問と嫁の着經
 妻深き世上乃長々 衣 造り
 大さき紙書よ飯代り

執筆 府月 逸巳 龜岱 執筆 未白 執筆 府月 龜岱 麩秋 徒琉 紀迪 來久

事少れ堤乃柳と刀掛
 娘乃村の足申る 橋 系
 産ちくく御幸洋〜 伝り 家
 海かき玉よ硯 彫る 可
 井送る名子あ〜〜 宮木 伐
 鷹よ追神〜〜 入るか鳥
 今今日乃卍會の兼筆筒出火
 志神〜〜乃扇子太案ひ合々
 鶴鶴〜〜侍よ置〜 叫き
 むつ〜〜きろ〜〜 ねもは〜〜 糸刻符
 縁若〜〜と豆祝〜〜 年
 鐘聲乃能くハ及る〜〜 老の所と

雲奴 午月 龜岱 柳々 紀迪 逸巳 執筆 全 未白 恭郷 逸巳 紀迪 恭郷

蓮見乃讀人々歩り石塔
 引窓此音大倍乃鞠々里
 調子もわづ井星小か其琴
 待々月と山路の傾き々
 化物屋敷い々なうき萩
 焚け々穴三方至極なりり
 富士山々々名と上々五高門
 高々乃岩間乃々々流々々々
 雉子啼立歳乃下道
 行騰も庶子班乃春々如雪
 八十の翁と今日如窓内子
 夜々不遊々々と連々々々巖嶋
 常乃頭中々々々儼梗

雲奴 午月
 未白 執筆
 府月 徒琉
 來父 執筆
 全 柳々
 麁秋 來父
 午月

割由光と坐圍繫い々竹々々々
 温泉場々々々々々々々々々々々
 竹睡る日と吉日と世と道と々々
 書寫の札と追おらう紙魚
 去すとのとわらうく乃小袖帯
 笑神如所々笑々々々 元
 能い仕舞除夜の火鈴々帆立貝
 羽織々鑑々々々々 鉄 拵
 月の事々々々々々々々々々々々
 体茶乃日々々々人々々々
 夏焼々々秋の抱毫儀一々々
 角の中々々々出々々々代継
 夏時乃乃六振種ハ々月出々々

雲奴 逸已 紀迪 府月 麁秋 龜岱 徒琉 柳々 執筆 全 麁秋 來父 未白

盆山の師乃養々 喰積
 金堀れもの名々 権よ杏の内
 濱辺近きとソウ 咲ける花
 雁より鳴より宿一 春の音
 何まゝあゝ塔の足 代
 一時由熊野とちせ 一食能
 吉原々世渡る 町ハ名 町々亭
 田の原乃ききく 善の月
 鳥爪ニツ四ツニツ 居々 露
 遊行遠々 私乃 橋

雲奴 紀迪 執筆 恭郷
 午月 未白 徒琉 來父 柳々 全 逸巳 恭郷

駢々先牧の世乃扱ハ 明々
 太刀も鳥帽子も怖り 一係ま付
 總後乃箕少り分け 酒磨明石
 僧々々々々々 安さ乃講祝師
 羊牖の窓々々々 三日如月
 四手打音ハ五町 程先
 ふ一の写使の苦々 芦の湯の長さ

麿狄 龜岱 府月 雲奴 未白 龜岱 逸巳 午月 府月 恭郷 執筆 全 柳々

暮子一生とて一てよと戸
 飛退そあうせくくえくくあ夫婦
 髪梳くちよよきまき鏡お水
 書はくも能くすおー長手お
 錫の鏡子よくつる 菱四
 古かーこ桂くく再乃笑搦ひ
 風鳴く寛るる 春

麈尾 徒瑠 執筆
 全全全全

又春

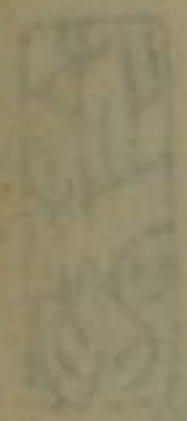
高 沢 満 野 澤

櫻 云 多 奇 峯

深 月 揚 明 輝

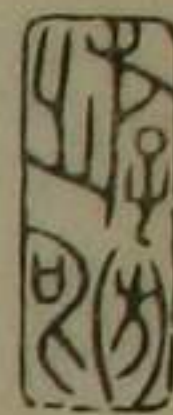
寒 嶺 秀 坂 采

京都親和家
 屋
 印



Vertical columns of handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), likely a preface or commentary. The text is written in dark ink on aged paper.





不二部之波集也

桂下露儀 自花ノ秋ヲ替ルル如ク
滑摺一蓮の好士哉東西より如ク
甲しとあぢと法ひく席に之とひく
定より一葉一毛 襪靴乃二雙とそ尾
動のゆきし如く 女集事人とも
花の氣一々 四季如 雅事とか
尤もいしきも 狩如く の席と侍
能く此の如く 春告鳥如
まの音も花の如く 如くはるる
花の如く 如くはるる

花の如く 紅雲如く 心乃 浅き
深き 音の 辰乃 花の 如く
何まの心 櫻木 一葉とそ尾
らまの如く 實と 金と 一葉とそ尾
如くはるる 其にせしむる 如く
一葉とそ尾 心乃 浅き
御下流乃 一隅に 舉る 如く
花の如く 如くはるる
花の如く 如くはるる



安永五歲丙申秋也

甲告吟

程世知終人間

萬事華能酒

心之度りし亭

亦出川橋安良

於麻也智西まき
流々鹿の聲

富士川も仇小

流き亭時西が

お

沾山領

四時之發句

春あふふ二十五弦波柳の浦
ソノ種より涌くも舟は清水が
入山乃をさるるきりりり月の
光の方忠閑うぬまも頭巾が

逸巳

全

朝若や十二ひくの当ふと毎
行燈ハ宵の終を垂る何また
夕アあつち者と少く心く舟が
暮りともいさあと同らん今朝の雪

紀肇

全

此あつち茵も耻よ畑乃梅
寒くく物浴衣此雪や富士詣

恭郷

名月や海乃莖よハ掛リ船
果ハ系門の多くくらん鉢多き

全

未白

猫追つハ嘗立一ハ小庭の南
土山乃腰を巡りや田植是
兄弟は手乃障り合ふ踊が
紫漬も水くく戯る蒲草が

全

麻生名

志神の戸藤六下六ハ梅乃門
乃月炸先乃窓行ぬけ新嘗が
松をえ一月やぬき夜乃藤系
園の夜や心くく啼一傷

柳々

全

山鳥乃乃尾をむくし雪解け
峰多川や九ツを待く持来より
花散もつ河原の花や女帝花
掃ふに秋煉小腫や十三夜

府月

全

水雪一枝遅し梅の枝
公雨よさる傘や九百番
卯雁や伊丹他田乃状便
杜人の足より足川冬木立
物同くも機音止ぬ草の枝
夕立よ皆とつ冠乃往來が

雲奴

徒琉

聖の虫や立退けいまもちんちん
鴨と芥將合なる毫う那

春風樓

味水

梅の香や折戸とる尾ののろろ音
蜂跡のすゝのしと歌く清水が
秋の月の纏り出しくや料の花
輪の葉小舞うて二度は後鳥か

全

一葉万里乃船乃道もろろか
歩行道もろろか

足洗の波を汐干波限里う木
ゆめを降る雨をさるる田植か
長き夜の松るつきら麻の糸
初雪や木曾路乃雪よたふら

春裡

全

くふ守や土踏とくも梅らもと
其外ハ鳥も通りたうんこも
月向秋ハ花もまゝに死るに秋の葉
眼も見せぬ山やもくき時雨も

梧下庵

紀迪

全

新さ花をみよる春の雨
蟬鳴の月と雲一も二日月
起く乃嚏あつり桐一葉
初雪よ善借あつりあつり

午月

全

山吹下葉よくむも此あつり
澤深や土切りあつり一畔

亀岱

何物の白くも花柱が
往もまゝ人高——今朝の雪

全

病札と供の眠く柳——
夕曲や月少ものえも予れ系
麻痺やお立行道乃物——
樹く枯——もく枯——

治禾

全

太田望輔のむく——と憶ふ

鍊心堂

味星

山吹下葉ハ公書干大里もあつり
吹くも予れ枯——深人——栗の予
こころは初道も思ふん山おま
掃き月——富士——枯丹が

全

時をくた 飯ももくや 猫の意
川中く 逃おの 葉もく 草のま
名月や 牝もも 花の 有るく
河を 手た 唾も 曲き 空や ありく

祇船

全

朝雲 立傷く の 葉 釜より
故の 筆 此 情も ちて 手 身が
尋く や 月も 住む 放生池
寒 菊の 影と 白ひ

三冬

東方

全

さ 鉢や 曙かき 桂川
の 心 や 筏吐 出 深山川

來久

入く 旅 披 尾花の 風
物も 行 我 定 三乃 朝

佛外

全

見 蓮の 花 お け なる 彼岸が
筑 鷹 錦 や 竹 乃 裕 乃 風
と 乃 乃 美 乃 世 川 乃 立 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

全

今 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

鹿秋

今 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

甲子年止弁司

今摩くと思くより久しきもの
申すや中其婦忠人今
中其の居る所白く
去る人も多し

同 二 章

連翹や寸寸とひしむも如花の枝

名越の中あつて
松場の所社に侍る

夕暮乃其形代やや小鳥
子ハ親の多きか
旅人も地藏も公一笠の雲

軸

冬英

挑義

柿下庵

不言

うらひや障とハさる障子越
はく多きのなまらしく如
志月まわりの如く馬や舟
錦うく女も誰か嫁市如雪

大尾

自在菴

祇徳

船形も知れぬ如く柳が
漆まきく花や甘方物乃
とるにも酒麩お月思や掛船
煤掃哉我神棚能御遷宮

安永六丁酉年喜久月吉日

彫工

書画

岡本松魚
荒木又刀

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

安永六丁酉年喜久月吉日

川舟の裏本より... 後年... 凡と... 凡

長之新... 凡

東双芝

松在庵貞年